

## 令和4年度学校教育教員養成課程

## (学校推薦型選抜Ⅱ型)


小学校教育専修家庭科教育コース

中学校教育専修家庭科教育コース

小論文

表紙

## [解答上の注意]

1. 試験開始後、表紙1枚、問題用紙1枚、解答用紙1枚、下書き用紙1枚があるか、確認しなさい。  
もし、欠落のある場合には挙手して、そのむねを申し出なさい。
2. 解答用紙の受験番号欄に、受験番号を忘れずに記入しなさい。
3. 解答は、指定された解答用紙に、指定された文字数で、横書きで記入しなさい。  
句読点も1字に数えます。
4. 解答用紙の太線  部分には、何も記入しないようにしなさい。
5. 試験終了後、解答用紙を回収します。(全1枚)  
表紙を含め、問題用紙、下書き用紙は各自持ち帰りなさい。(全3枚)

# 令和4年度学校教育教員養成課程

## (学校推薦型選抜Ⅱ型)

### 小学校教育専修家庭科教育コース

### 中学校教育専修家庭科教育コース

#### 小論文

#### 問題用紙 全1枚

#### 問題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

人々が安全に暮らすことができる社会の実現は、最も重要な政策課題の一つです。また、未来を担う子どもたちが健やかに育っていくことは社会全体の願いです。

発達段階にある子どもは、身体機能が未熟であるため、事故に遭うと大人よりも危険な状態に陥りやすいという特徴があります。身体の傷害が将来に影響を及ぼしたり、命を失うといった事態になれば、子ども本人にとって、保護者を始め子どもの周囲にいる人にとって、そして社会にとって、取り返しのつかない大きな損失になります。

子どもが事故により亡くなるという状況は年々減少していますが、子どもの死因の中ではいまだに事故が上位にあります。事故の発生を防ぎ、万一、事故が発生しても被害を最小限にとどめるために、更に取り組を進めていく必要があります。

(中略)

子どもが事故に遭った時に、往々にして、保護者の責任が全てであるかのように受け取られ、保護者も自身の責任と感じ、事故の原因究明がうやむやになってしまうことがあります。しかし、事業者が安全な製品を供給していたら、行政が適切に安全の基準を設けていたら、保護者に事故の危険性やそれを防ぐ方法を伝えていたら、事故は起きなかったかもしれません。事故は、保護者だけでなく、社会全体で防ぐものです。

子どもの事故防止に向けて行うべきは、事故情報を収集し、類似の事故が起きないように幅広く注意喚起を実施することです。同時に、事故情報の内容について分析し、原因究明を行い、事故が再び起きないように、改善できることは何か、どのような手段が有効か、更には関係者で連携を図る等、対策を考えることです。そして、対策を実行に移し、その効果について検証するというのが、社会全体での事故防止への仕組みにつながります。

(消費者庁『平成30年版 消費者白書』勝美印刷、2018年による。表記を一部変更した。)

問1 子どもが事故防止のためには、誰がどのような取組を行っていくことが重要だと述べられているか、200字以内でまとめなさい。

問2 図は、子どもの事故による死因の内訳を年齢別に示したものである。子どもの事故死を減らすには、どのような取組を行っていくことが有効と考えられますか。図から分かることを説明しながら、あなたの考える具体策を400字以内で述べなさい。

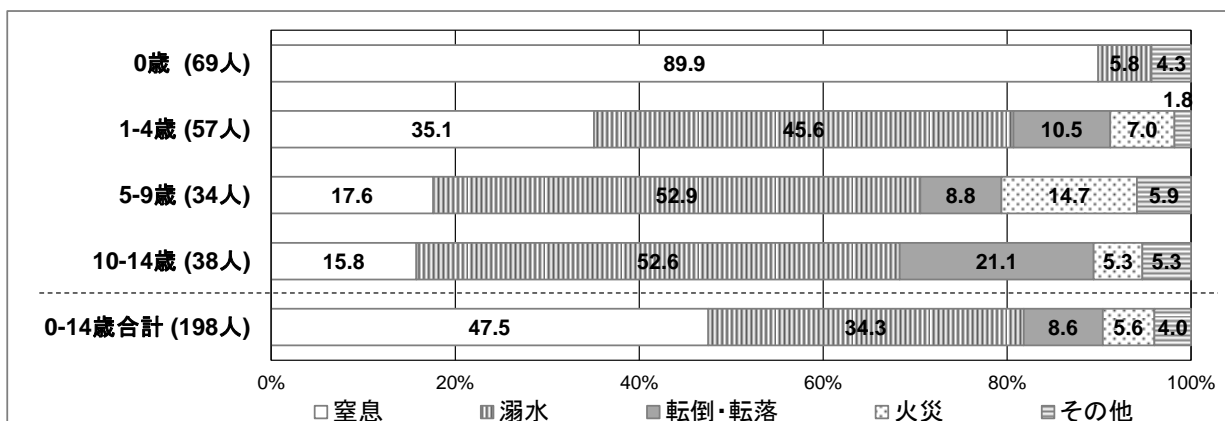


図 子どもの事故(交通事故、自然災害を除く)による年齢層別の死因内訳(2016年)

厚生労働省「人口動態統計」(2016年)により作成した。

構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、その合計は必ずしも100.0%にならない。